

北山八坂古墳

1. 所在地 大川郡長尾町造田は弘
2. 調査主体 長尾町教育委員会
3. 調査期間 平成8年3月6日～5月12日
4. 調査面積 約400m²
5. 調査担当者
高畠 豊 阿河銳二 太田朋子
(大川地区)
6. 調査の原因 工業団地造成事業
7. 調査結果の概要

この古墳は八坂墳墓群の調査中に同丘陵上の北で新たに発見され、北山八坂古墳として事前調査を行った。開墾のため既に一部は削平されていた。この古墳の最大の特徴の1つは墳丘に2基の横穴式石室を築いていることである。北側の1号石室が羨道部を含めた長さ約7m、玄室は約4×1.5mであるのに対し南側の2号石室は約3.5×1mであり、羨道部が破壊されているため全長は不明であるものの明らかに2号石室のはうが小さい。どちらも南西方向に開口しているが、2号石室がやや南を向いており主軸方向は微妙に異なっている。1号石室は櫛床であるが2号石室は板石を敷いていた。出土した須恵器から1号石室は6世紀後半に、やや遅れて2号石室が築造されたと考えられる。築造後、1号石室は3回、2号石室も1回以上の追葬を行ったと思われ、1号石室の最終的な追葬は7世紀前半と考えられる。1号石室が墳丘中央に築かれていたとすれば墳丘規模は約17～19mぐらゐの円墳と推定され、規模や追葬回数、出土遺物からみても1号石室が主体であり、2号石室が明らかに周溝側に片寄っていることなどからも2号石室の築造を当初から想定したものではないと考えられる。

8. まとめ

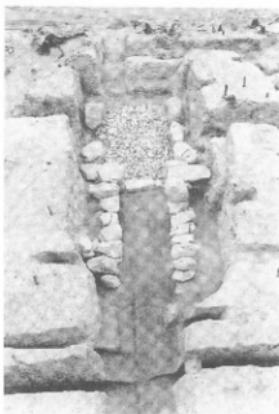
同一墳丘内にあえて2号石室を築いた理由を説明することは困難であるが、2基の石室の被葬者群は密接な関係を持つつも明らかな差異があったといえる。今後、この地域の後期古墳の展開や社会関係を考えていくうえで重要な資料である。



第1図 遺跡の位置（「度志」）



第2図 墳丘全景（南西から）



第3図 1号石室全景

いし だ こう こう こう つい ない 石田高校校庭内遺跡

1. 所在地 大川郡寒川町石田東字風配甲
2. 調査主体 寒川町教育委員会
3. 調査期間 平成9年2月1日～3月31日
4. 調査面積 850m²
5. 調査担当者 寒川町教育委員会 山本一伸
6. 調査の原因 宅地造成
7. 調査結果の概要

本遺跡は、県立石田高校と加藤遺跡の中間地点に位置している。調査区内に3区の調査区を設定して調査を行った。検出した遺構は(1)弥生時代後期～古墳時代初頭にかけてのものと、(2)古墳時代後期～終末期の時期に大別できる。(1)は円形周溝墓と推定される遺構をはじめ、竪穴住居跡、土坑、自然河川、柱穴等を検出した。

周溝墓と推定される遺構はI区南西隅部で検出した。主体部と思われる遺構も検出したが、明確な掘り方を確認できたものは少ない。また、周溝墓と推定される遺構の西半部が調査区外になるため明瞭なマウンドは確認できなかった。(2)は竪穴住居跡が中心で6棟検出した。いずれも深さが10cm程度と残存深が悪かったにもかかわらず、須恵器杯蓋・杯身等が出土している。

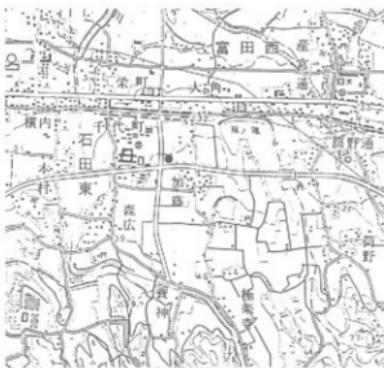
8.まとめ

弥生時代後期～古墳時代初頭にかけての遺構は、庄内式併行期に構築されている。森広遺跡北西部で円形周溝墓が2基確認されており、同遺跡の東側を走る道路部分でも壺棺が3基出土している。このことから森広遺跡北西から今回調査区南西付近にかけて、墓域として利用されていたことが想定できる。

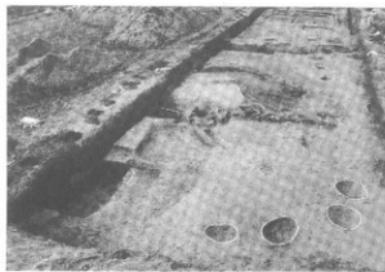
また、古墳時代後期の集落域は今回の調査では、散在してはいたが確認されたことにより、森広遺跡東部で密集している集落域の範囲がさらに北東に広がるものと推測できる。

詳細については本報告で報告したい。

(山本)



第1図 遺跡の位置（「度志」）



第2図 I区南半部全景



第3図 I区竪穴住居跡

とみた ちゃうすやま
富田茶臼山古墳 1号陪塚

1. 所在地 大川郡大川町富田中石仏
2. 調査主体 大川町教育委員会
3. 調査期間 平成 8年 9月 19日
～平成 8年 11月 4日
4. 調査面積 約480m²
5. 調査担当者 高畠 豊（大川広域）
6. 調査の原因 個人住宅建設
7. 調査結果の概要

平成 5年度および平成 6年度の調査のよって富田茶臼山古墳周辺には、3基の陪塚が存在する事が明らかにされている。今回、1号陪塚北半分を含む水田部分を地権者が宅地として造成することとなったため、この造成予定範囲に付いて発掘調査を行った。調査の結果、1号陪塚周溝のはか2号陪塚の南東のコーナ部分および溝2本を検出した。

1号陪塚周溝

平成 6年度の調査で遺構全体の検出が行われ、南北13m～14m、東西15m～16mの方墳と推定された。墳丘は、ほとんど削平されて周溝のみが残存していることが確認されている。今回の調査では、周溝の北東コーナ部を含む北辺部分を検出したが、前回調査時の所見を再確認することとなった。先の調査でも確認されていたように残存している溝の深さは、10cm～20cm程度であり、西端部およびコーナ部分南側は、削平のため消滅していた。溝内からは、円筒埴輪の小片が出土している。

2号陪塚周溝南東コーナ部分

調査区の北西隅で検出された落ち込みであるが、その位置・平面形態・内部から多量の円筒埴輪が出土したことの諸点により、2号陪塚の周溝南東コーナ部分であると判断された。北側および西側にむかって緩やかに落ち込んでおり、検出面から深さは、最大で約80cmを測る。最深部のレベルは、調査区北隣の宅地とほぼ同じである。平成 6年度の調査では墳丘西側において上端幅 5m の周溝が確認されているが、今回検出した周溝外側のラインを延長して推定すれば、墳丘東側および南側においても同程度の幅の溝が廻っているものと考えられる。また、南側周溝の外側は、調査区に西隣の水田の北辺畦畔よりやや南側に、ほぼ並行して延びており、耕作土下に保存されているものと推定される。

溝1

1号陪塚周溝の東側で検出され、やや弧を描いて南西から北東へ下っている。中間で80cmほどであるが南に行くほど削平を受けているためか深さ・幅が減じて消滅している。また、東端付近は、北側肩部が、不明瞭となり、単なる急斜面に近いものとなっている。別の古墳の周溝ではないかとも考えられたが、埋土からは、わずかに円筒埴輪細片が出土したのみであり、その性格は不明である。

溝2

平成 6年度の調査において1号陪塚周溝北側で「北に向かって下る人為的な傾斜整形痕」として検出され、周庭帯外縁ラインにつながることから茶臼山古墳築造時の地山部と推定されていたものであるが、今回の調査の結果、独立した一本の溝であることが判明した。この溝は、1号陪塚周溝北側を並行し、東端付近で北へやや向きをかえつつ西から東へ下っている。幅1



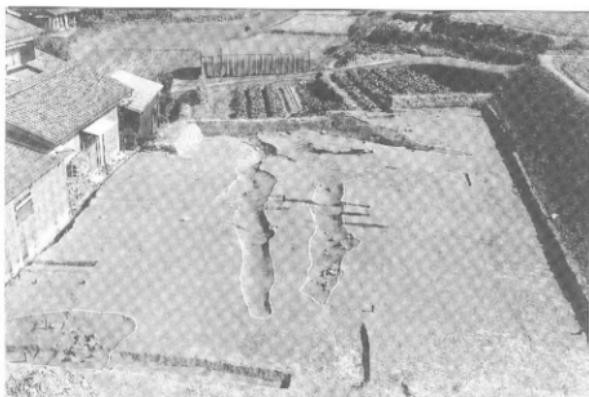
第1図 遺跡の位置（「志度」）

から1.5m、深さ20~30cmを測り、西端部は削平を受けて消滅している。埋土からは少量の円筒埴輪片が出土したのみである。また、土層堆積状況の観察からは、1号陪塚周溝との前後関係を判断することはできなかった。

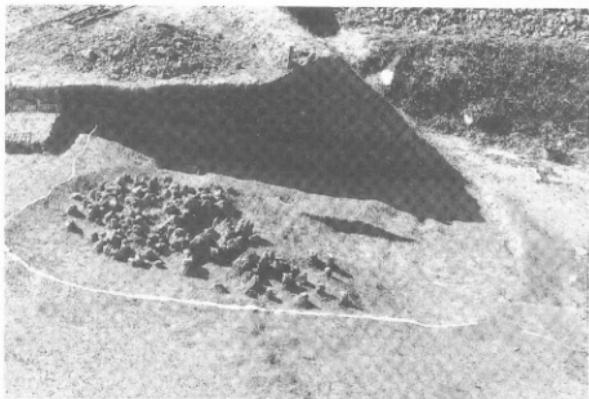
地山上面の地形

溝の検出面は、すべて地山の上面であったため、調査は、調査区全面にわたって、地山上面まで掘り下げるのこととなった。その結果、地山上面の地形は、北東隅が西→東、南→北へ大きく落ち込んでおり、近世以降の水田造成により埋められたものであることが判明した。

溝2の項で述べたように、今回の調査範囲は、1号陪塚の北側に並行し、周庭帯外縁ラインにつながる茶臼山古墳築造時の地山整形範囲外縁部にあたる可能性が考えられる。ただこの落ち込みは、人為的な整形によるものと断定できるほどシャープに落ちているものではないため、自然地形にすぎない可能性もなお大きいと思われる。



第2図 1号陪塚全景



第3図 2号陪塚南東コーナー部

王子の谷遺跡

1. 所在地 大川郡大内町
2. 調査主体 大内町教育委員会
3. 調査期間 平成8年7月12日
～平成8年9月30日
4. 調査面積 1500m²
5. 調査担当者 萬木一郎（大川広域）
6. 調査の原因 農村総合整備事業大内地区土居団地圃場整備
7. 調査結果の概要

1 東地区

中世の建物群および溝が検出された。建物は、数回の立て替えが行われているようで延べ4棟以上あり、調査区の外にまで広がっていると推定される。調査地区は地下水位が高いため、柱に用いられていた木がそのまま腐らすに残っていた。また建物群に先行する可能性もあるが、鍛冶を行った遺構（鍛冶炉）も検出された。遺物は土師質土器（素焼きの土器）の皿、いわゆる「かわらけ」が主であり、形や大きさのよく揃ったものが大量に（おそらく千枚以上）出土した。ほかに少量ではあるが瓦も出土した。土器の特徴から、遺跡は室町時代前半のものであろうと思われる。中世において「かわらけ」は灯明皿に用いられる他、儀式や祝宴で大量に使い捨てられたとされるものである。

2 西地区

奈良時代のものと思われる建物が、調査区内に5棟検出されている。当地区は調査前には段々畠状の水田であり、元の地形は東向きのやや急な斜面であったはずであるが、建物群はこうした地形の所を整地して建てられていたらしく、県内の古代の遺跡では例のない立地である。また調査地区的半分から東は、圃場整備で盛り土を行う部分であるが、事前の試掘調査で大量の奈良時代の遺物が出土し、建物跡も検出されている。従って、調査区を上限として谷底の湿田地帯を臨む斜面一帯に、建物群が建てられていた可能性が高いと考えられる。なお、中心部分は圃場整備後も盛り土の下に保存されることとなる。遺物は須恵器や土師器が出土しているが、A地点よりも高い場所であるためか出土量はやや少ない。なおA地点では試掘時に同様の遺物の他、移動式の力マドや製塩土器（焼塩製造用土器）が出土した。

8. まとめ

本遺跡において規格的な「かわらけ」が大量に出土したことは、ここでこうした儀式や祝宴が行われていたことを示しているが、少量ながら瓦が出土していることからすれば、寺院跡の可能性が高いのではないかと思われる。調査以前この場所には「つか」があり、糞尿など不淨を行ってはいけないというタブーがあったそうである。「つか」自体はほとんど削平されてしまっており、耕作土を低く盛っただけのものであったが、伝えられていたような伝承は、ここにかつて存在した建物の性格を反映している可能性が考えられる。また西地区においても、検出した建物の軸方向が、ほぼ揃っており周辺に建物の企画的な配列が行われた可能性が高くなる。

（萬木）



第1図 遺跡の位置（「讚岐津田」）



第2図 調査対象地位置図



第3図 東地区全景



第4図 東地区建物跡



第5図 東地区建物跡柱材出土状況



第6図 西地区建物跡

こんびらやま 金毘羅山遺跡

1. 所在地 大川郡大内町水主下屋敷
2. 調査主体 大内町教育委員会
3. 調査期間 平成8年4月15日
～平成8年5月14日
4. 調査面積 300m²
5. 調査担当者 萬木一郎（大川広域）
6. 調査の原因 県営圃場整備事業大内地区
7. 調査結果の概要

四国横断自動車道建設に伴い隣接する水主下屋敷地区で県営圃場整備が計画され、県教育委員会の試掘結果により、パイプラインと水路部分及び道路部分の本調査を行った。当初の予想よりかなり深く遺構、包含層が広がり、縄文晩期の土器が自然流路や、包含層から出土した。

また同時に金山産のサヌカイトの石材（長径18cm）も出土した。また地形的に金毘羅山から東に舌状に伸びる低い丘陵状にあり、南西から北東に流れる深さ4m以上の自然流路の両側に集落が広がっていたと考えられる。今回の調査では、自然流路の南側で深さ1m程の環濠らしきV字状の溝が検出され、中から多量の弥生時代後期の完形の土器が出土した。またその上層では、古墳時代前半の浅い土坑、土器溢りを検出した。

8. まとめ

今回の調査では、弥生時代後期から終末期かけての土器が、多量にまとまって出土したので、地域性の違いや、特徴が整理作業によって明らかにできると考えられる。またV字状の溝についても今回4m幅の調査であったが、出土した完形の土器から環濠になると考えられる。今回の調査では、住居跡は、検出できなかったが、調査区から与田川までの低微高地状の場所に集落が広がると考えられる。縄文晩期についても、突帯紋土器と一緒にサヌカイトの石材が出土しているので、周辺に遺跡が点在する可能性が高く今後の調査に期待が出来る。

（萬木）



第1図 遺跡の位置（「三本松」）



第2図 調査風景



第3図 遺物出土状況

馬宿畑方遺跡

1. 所在地 大川郡引田町馬宿畑方
2. 調査主体 引田町教育委員会
3. 調査期間 平成8年5月1日
～平成8年6月30日
4. 調査面積 約1,200m²
5. 調査担当者 萬木一郎
6. 調査の原因 農業集落排水事業黒羽地区
処理施設建設
7. 調査結果の概要

馬宿川下流東側、光洋精工引田工場の北東となり合う水田部分に農業集落排水処理施設が建設されることになり、発掘調査を行った。遺跡のあった場所は、馬宿川の氾濫原で、全面石混じりで戦前までに耕地整理が行われていたがそのときに埋められた石混じりの土を取り除くと、下から奈良時代後半から平安時代初めにかけての須恵器に伴って多量の製塩土器が出土した。また海沿いの地域であるので、管状土錘などの漁労関係の遺物も若干出土している。

8.まとめ

今回出土した製塩土器は、焼き塩用の土器で、いずれもバラバラに壊れた状態で出土したので、現在形のわかっているものは、丸底で円筒形の細長い形のもので、破片の内側に布のあとが残るものである。このことから土器製作時に、布をかぶせた型に粘土を巻き付けて形を造ったことがわかる。この形の土器は、県内ではほとんど出土例がなく、北九州を中心とする西日本各地で似た形のものが見つかっており、長岡京の遺跡でも多数出土している。（萬木）



第1図 遺跡の位置（「引田」）



第2図 旧流路と江戸時代砂糖じめ開連遺構

のう がく ぶ 農 學 部 遺 跡

1. 所在地 木田郡三木町池戸2393
2. 調査主体 香川大学埋蔵文化財調査室
3. 調査期間 平成8年12月25日
～平成9年1月1日
4. 調査面積 100m²
5. 調査担当者 丹羽佑一
6. 調査の原因 開発事業
7. 調査結果の概要

調査区は農学部校内の南西隅、正門に内接する。基本層序は地表下約50cmまでが構内整地置土、約130cmまでが水田床土と思われる泥質砂土群、約220cmまでが青灰色を基調とする砂層群で平安時代に属する土器群・時期不明須恵器片・縄文時代晚期中頃の精製浅鉢片が総量で

コンテナ1箱分出土した。それ以下約300cmまでが黒色を基調とする粘土・砂層群で弥生時代前期新段階の土器・サヌカイト製の石器が総量でコンテナ8箱分出土した。約350cmまで黒色を基調とする粘土と砂の互層が続いたが遺物は出土しなかった。湧水が甚だしいためこの深度をもって調査は終了した。

8.まとめ

調査によって明らかとなった基本的層序は従来の付近の調査結果を再確認させるものであったこと、多量の弥生時代前期新段階の土器が得られたこと、同土器群は包含層序から新旧2時期に区分される可能性があること、同土器群の殆どは旧新川の氾濫原の土層群に二次堆積した形跡を強く示すものであったが、集中出土した3個体分の土器群には投棄の可能性もあり、居住地の隣接が推定されること、平安時代土層の包含であったが縄文時代晚期中頃の土器の存在は本地域の活動が縄文時代晚期に遡ること、従って本地域が従来不明であった高松平野の縄文時代から弥生時代への展開を跡づける研究対象地域になったこと、以上が調査成果として上げられる。

(丹羽)



第1図 遺跡の位置（「度志」）



第2図 弥生前期土器の集中出土



第3図 調査風景

3. 平成 8 年度財団法人香川県埋蔵文化財調査センター発掘調査概況

(1) 県事業に伴う調査状況

1. 調査の概要

平成 8 年度の県道を除く県事業関係の発掘調査事業は、区画整理事業関係 2 遺跡、施設整備関係 4 遺跡、河川改修 1 遺跡の合計 7 遺跡の発掘調査を実施した。

高松港頭土地区画整理事業に伴う香西南・鬼無地区西打遣跡の発掘調査は、JR 貨物操車場建設予定地の調査で市道木太鬼無線より北の操車場予定地および外周道路部が埋蔵文化財調査センターが担当する調査対象地である。平成 8 年 12 月から対象面積約 8 ha に対して 2,100 m² の予備調査トレンチを調査した後、平成 9 年 1 月から対象地南端部鬼無町側で 2,000 m² の発掘調査を実施した。対象地周辺は条里地割がよく残存する地域である。調査では条里地割内に営まれた方形外郭構に囲まれた鎌倉時代後半代の屋敷地を検出した。遺構の残存状況は良好で、対象面積が広いこともあり、讃岐の典型的な中世村落の状況が来年度の調査を含めて明らかになっていくものと考えられる。

高松市西の丸町の高松城跡の発掘調査も高松港頭土地区画整理事業に伴う発掘調査で、昨年度実施した同遺跡の南側に位置する。対象地は、高松城西ノ丸外曲輪にあたり、外堀の延長上に位置する西ノ浜舟入に面した箇所である。対象面積は 3,693 m² で、高松藩の 16 世紀末から生駒期、松平期を経て幕末に至るまでの武家屋敷地が展開した箇所である。調査では、生駒期の屋敷地割の基準となった堀の痕跡や最上級家臣である上坂勘解由の名のある墨書き木札また志野の向付など食器組成を明らかにし得る資料が出土している。この調査で、西ノ丸の外曲輪の変遷を知る上で貴重な資料が得られた。

高松東ファクトリーパークの整備に伴い小谷窯跡と塚谷古墳の発掘調査を実施した。両遺跡は近接し、小谷窯跡が築かれた斜面の直上の稜線上に塚谷古墳は立地する。小谷窯跡は 3 基の登り窯と灰原からなり、7 世紀代の須恵器を焼成している。塚谷古墳は径 15 m ほどの横穴式石室の円墳で、石室内から須恵器・土師器とともに窯壁が出土している点は注目される。

県営水道第 3 汚泥投棄場整備に伴い、綾南町丸山窯跡の発掘調査を実施した。平成 4 年度の県教委の調査に引き続くもので、ロストル付き瓦窯跡 1 基と瓦溜遺構を検出している。調査対象面積は、1,076 m² である。

本津川河川改修に伴い香西南遺跡の発掘調査を実施した。JR 貨物操車場建設予定地の東方にあたり、対象地は中世末期頃の氾濫源の上に水田域が形成され、現在にいたると考えられる。本津川の現流路は条里地割の里境界にほぼ一致することから本津川の流路整備を受けている可能性があり、その時期的根拠の資料を得られたものと考えられる。

インテリジェントパーク整備事業実施に伴い実施した空港跡地遺跡の調査は、県立図書館の西に位置し、調査対象面積は、5,700 m² である。調査では平成 3 年度の空港跡地遺跡の発掘調査で検出した続きとなる弥生時代末から古墳時代初頭の土器群を含む周溝墓 2 基を検出した。周溝墓は、残念ながら主体部は残存していなかった。また本遺跡は弘福寺領田団の南部推定地と一部重複した箇所であり、検出した埋没河川は田団との比較の中で注目されるものである。

2. 遺跡別発掘調査結果の概要

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
西打遺跡	高松市香西南町鬼無町	4,000m ² (内予備調査 2,100m ² 含む)	平成 8年12月1日～ 9年3月31日	掘立柱建物 掘敷地外郭溝 井戸・条里世界溝	土師器・瓦器・青磁
高松城跡	高松市西の丸町	3,639m ²	平成 8年4月1～ 9年3月31日	建物礎石・櫛列・井戸 ・石組溝	墨書き札・唐津・美濃 陶器・瓦
小谷窯跡	木田郡三木町 井上	8,800m ²	平成 8年4月1～ 8年9月30日	登り窯3基・灰原	7世紀代須恵器
塚谷古墳	木田郡三木町 井上	7,000m ²	平成 8年4月1～ 8年9月30日	横穴式石室円墳・土抗	窓壁・7世紀代須恵器
丸山窯跡	綾歌郡綾南町陶	1,078m ²	平成 8年7月1～ 8年9月30日	瓦窯・灰原	瓦
香西南遺跡	高松市香西南町	1,500m ²	平成 8年7月1～ 8年9月30日	遺物包含層	土師器
空港跡地	高松市林町	5,700m ²	平成 8年10月1～ 9年3月31日	周溝墓・溝・自然河川	弥生土器・磨製石斧 ・打製石斧

(2) 県道事業に伴う調査状況

1. 調査の概要

平成8年度に財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが受託した県道事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、坂出市川津川西遺跡、雄山古墳群、高松市兀塚遺跡、林下所遺跡、竹元遺跡、三木町南天枝遺跡、尾端遺跡、牟礼町原中村遺跡、大川町寺田・宮宮通遺跡の9遺跡で調査を実施した。

国道438号道路改築事業川津橋橋梁整備に伴う川津川西遺跡の調査は、1,500m²を調査対象として、平成8年10月より12月までの3ヶ月間で実施した。この調査では縄文時代の包含層、弥生時代後期の包含層及び自然河川、古墳、平安、鎌倉時代の集落の調査を実施した。

県道高松王越坂出線道路改良工事に伴う雄山古墳群の調査は、6,328m²を調査対象として、平成8年4月より9月までの6ヶ月間で実施した、この調査では、7基の雄山古墳群の内4基の後期古墳の調査を実施した。これらの古墳は横穴式石室導入期の古墳群で、馬具、鏡等の副葬品も豊富で大変貴重な調査成果をあげた。なお、雄山古墳群では先の調査成果をもとに、一般県民を対象に現地説明会を開いた。

県道三木国分寺線地方特定道路整備事業に伴う兀塚遺跡の調査は、昨年度からの継続調査で、今年度は3,529m²を調査対象として、平成8年4月より9月までの6ヶ月間で実施した。この遺跡では、古墳時代と鎌倉時代の集落の調査を実施した。なお、兀塚遺跡では未退去家屋の関係で、小範囲ながら次年度に調査を残すことになった。

県道中德三谷高松線緊急整備事業に伴う林下所遺跡の調査は、2,038m²を調査対象として、平成9年2月より3月までの2ヶ月間で実施した、この遺跡では、小規模な近世後半の集落の調査を実施した。

県道塩江屋島西線道路局部改修工事に伴う竹元遺跡の調査は、453m²を調査対象として、

平成9年2月より3月までの2ヶ月間で実施した。小範囲の調査にもかかわらず、この調査では、縄文時代晩期の土坑と自然河川、弥生時代後期の良好な遺物等の成果をあげることができた。

県道高松長尾大内線道路改築事業に伴う南天枝遺跡の調査は、3,800m²を調査対象として、平成8年4月より11月中旬までの7.5ヶ月間で実施した。調査は掘削及び仮設工事を業者に請負わせる工事請負方式で実施した。南天枝遺跡では、古墳時代未及び中世の集落の調査を実施した。住居跡の数も多く当該期の集落構成を理解するうえで貴重な成果になった。

県道高松長尾大内線地方特定道路整備事業に伴う尾端遺跡の調査は、4,200m²を調査対象として、平成8年11月中旬より平成9年3月までの4.5ヶ月間で実施した。調査は南天枝遺跡同様工事請負方式で実施した。尾端遺跡では、古墳時代末～奈良時代の集落、近世後半の墓群等の調査を実施した。なお、尾端遺跡では未退去家屋の関係で、小範囲ながら次年度に調査を残すこととなった。

県道高松志度線緊急整備工事に伴う原中村遺跡の調査は、1,500m²を調査対象として、平成8年4月より6月までの3ヶ月間で実施した。原中村遺跡では弥生時代後期の小規模な集落及び自然河川中より良好な遺物包含層を検出している。

県道富田西志度線緊急地方道路整備事業に伴う寺田・産宮通遺跡の調査は、昨年度からの継続調査で、今年度は1,544m²を調査対象として、平成8年4月より6月までの3ヶ月間で実施した。この遺跡の調査では、昨年度の調査区より続く弥生時代中期の集落及び中世の遺構・遺物を検出した。

2. 遺跡別発掘調査結果の概要

遺跡名	所在地	調査面積(m ²)	調査期間	遺構	遺物
川津川西	坂出市川津町72-2	1,500	平成8年10月1日～8年12月31日	堅穴住居跡・掘立柱建物跡・地鎮遺構	縄文土器・須恵器・土師器
雄山古墳群	坂出市高屋町	6,328	平成8年4月1日～8年9月30日	古墳(円墳)	須恵器・土師器・瓦器・青銅鏡・鉄製品・道輪
兀塚	高松市塙紙町203-4 円座町342他	3,529	平成8年4月1日～8年9月30日	堅穴式住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑	須恵器・土師器・瓦器・陶磁器・管玉
林下所	高松市林町2104-1	2,038	平成9年2月1日～9年3月31日	掘立柱建物跡・溝跡・土坑	陶磁器・土師器
竹元	高松市東栄町田	453	平成9年2月1日～9年3月31日	自然河川跡・溝跡・土坑	縄文土器・弥生土器
南天枝	木田郡三木町田中字南天枝	3,800	平成8年4月1日～8年11月20日	堅穴式住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡	須恵器・土師器・瓦器・陶磁器・古鏡
尾端	木田郡三木町田中字尾端813-1他	4,200	平成8年11月21日～9年3月31日	掘立柱建物跡・大型土坑・井戸跡・溝跡・墓跡・櫛列	須恵器・土師器・瓦器・陶磁器・木柵
原中村	木田郡幸礼町原	1,500	平成8年4月1日～8年6月30日	堅穴住居跡・自然河川跡・土坑	弥生土器・石器・陶磁器
寺田・産宮通	大川郡大川町富田西字大道	1,544	平成8年4月1日～8年6月30日	堅穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・落ち込み	弥生土器・土師器・黒色土器・瓦器・木製品

(3) 横断道事業に伴う調査状況

1. 調査の概要

四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成3年度に普通寺～高松間の発掘が終了し、これ以後整理・報告作業を進めていたが、本年度より高松以東の発掘が始まることになった。今回の調査は高松市内区間と津田～引田間の2地域に大きく分けられ、この2地域の間の三木～津田間は高松東道路（自動車等用道路）として既に発掘が終了している。

高松市内区間（中間町～塙紙町、勅使町～前田東町）は県道及び国道11号（南バイパス・高松東道路）の上に建設されるため、埋蔵文化財調査は国道の拡幅箇所等が主な対象となり、建設省施工区間も含めると香川郡条里A（中間東井坪遺跡、正箱遺跡）・B・C・D地区、山田郡条里、林・坊城遺跡、東山崎・水田遺跡、前田東・中村遺跡が調査対象となっている。

本年度は、このうち香川郡条里A地区、林・坊城遺跡、山田郡条里地区の3箇所を調査した。香川郡条里A地区は予備調査の結果、古川以南において旧石器の包含層が確認されたため、中間東井坪遺跡と名付け、平成9年1月から全面発掘を行った。ナイフ形石器、剥片、チップなど百数十点が出土した。古川以北の正箱遺跡は家屋が撤去された以後に調査を実施する予定である。林・坊城遺跡は高松東道路建設に伴い昭和63年度に調査された箇所の南北に隣接する部分が今回の調査対象地である。予備調査の結果、昭和63年度調査で縄文時代晚期の木製農耕具が出土した自然河川の延長部や河川西側の微高地に弥生時代の造構が展開することが確認された。全面発掘はこれらの部分を対象に来年度以降に実施予定である。

山田郡条里地区は、この付近一帯に建設されるインターチェンジ予定地の北部と中央部分を指す。北部は山田郡条里Bと呼び、県道事業として発掘調査（林下所遺跡）が実施されている。中央部が公団事業として今回調査の対象になった箇所で、山田郡条里Aと呼ばれる地区である。インターチェンジ南部は上述した林・坊城遺跡である。山田郡条里A地区の調査は予備調査の後、溝状造構が検出された範囲について林沿遺跡と名付け、全面発掘を行った。溝状造構から勾玉、ガラス玉が出土した。

一方、津田～引田間の調査は、津田町2地区、大内町11地区、白鳥町5地区、引田町4地区、合計22地区が調査対象になっている。本年度はこのうち津田町中谷、大山地区、白鳥町成重地区、大内町下屋敷、楠谷、原間地区の6地区の調査を行った。

中谷地区（遺跡）は予備調査の後、中世の造構・遺物が集中していた範囲を全面発掘し、本年度で発掘は完了した。大山地区（遺跡）も予備調査の後、中世の造構・遺物が集中していた範囲を全面発掘し、本年度で発掘は完了した。

成重地区は対象範囲が約5万m²と広範囲のため、本年度は予備調査を実施し、弥生時代の造構・遺物の所在状況を確認し、全面発掘は来年度の予定である。下屋敷地区は一部の地区を本年度予備調査し、来年度以降も予備調査を継続するとともに一部の地区については全面発掘を実施する見通しである。楠谷地区はA・B・Cの3地区に細分されるが、本年度はB地区を対象に調査を行った。予備調査の結果、古墳時代の造構が確認され、来年度に全面発掘を実施する予定である。原間地区はインターチェンジ予定地で、対象面積が広大であり、用地取得が年度末に近かったため、現地踏査を中心に予備調査を実施した。

遺構・遺物の包蔵状況の確認及び全面発掘は来年度の予定である。

なお、詳しくは『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』平成8年度を参照されたい。

2. 遺跡別発掘調査結果の概要

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
中間東井坪 (香川郡条里)	高松市中間町	709m ²	平成8年4・5・9月 9年1~3月	旧石器包含層ビット	ナイフ形石器
林坊城	高松市林町	481m ²	平成8年10月	堅穴式住居跡、土坑	弥生土器・須恵器
林番 (山田郡条里)	高松市林町	626m ²	平成8年10月~ 9年1月	溝跡	勾玉・ガラス玉
中谷	津田町鶴羽	518m ²	平成8年10月 9年1月	ビット	土師器・青磁・瓦器 土鍬
大山	津田町鶴羽	2113m ²	平成8年10月~ 9年1月	溝跡・土坑・土壙墓 ビット	土師器・瓦器・石鍋 土鍬、弥生土器
下屋敷	大内町水主	446m ²	平成8年11月	なし	陶磁器
楠谷	大内町水主	460m ²	平成8年12月	溝跡・ビット	土師器
原間	大内町河東	500m ²	平成9年2・3月		
成重	白島町白島	1,500m ²	平成9年2・3月	堅穴住居跡・溝跡 土坑	弥生土器

(4) 国事業に伴う調査状況

1. 調査の概況

平成8年度は、国道32号満濃バイパス建設、高松東道路（三木～津田間）建設、国立善通寺病院看護学校建設の3事業に伴い、3遺跡についての発掘調査を実施した。

各調査は、派遣職員2名と嘱託職員1名による調査班を組織し、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが、現場作業員を直接雇用する直営方式により実施した。

まず、国道32号満濃バイパス建設に伴う調査は、満濃町吉野下秀石遺跡の残地部分について実施した。当該遺跡については、平成5年度の調査において、古墳時代後期の堅穴住居跡群を検出しており、造り付け竈の位置と構造の差違から、居住遺構の多様性が指摘されていたために、この点を補強することを主眼として調査を進めた。

調査規模は小規模であったが、古墳時代後期の堅穴住居跡群を新たに検出し、その多様性を再確認することができたことから、今後のグルーピング作業と、パターンの特定が期待される成果を得ることができた。

次に、高松東道路（三木～津田間）建設に伴う調査は、三木町西浦谷遺跡の残地部分に

について実施した。当該遺跡については、平成8年度の調査において、弥生時代の高地性集落跡と古墳時代後期の横穴式石室を有する円墳が検出されていたが、本調査は、丘陵の南斜面における遺跡の広がりを確認することが目的とされた。

調査の結果、人工的に開削された段状の遺構と多数の柱穴跡が遺存することが判明し、丘陵の頂部から傾斜面の広い範囲が集落城として利用されていたことが明らかになった。

また、国立善通寺病院看護学校建設に伴う調査は、同病院の敷地全域に広がる旧練兵場遺跡の北東部分を中心として実施した。同遺跡については、従前から県下の弥生時代中期から後期の集落跡としては、最大級の規模と内容を有することが指摘されており、香川県教育委員会による散発的な調査によても、この点が裏付けられていたのであるが、大規模な調査としては、本調査が初めてとなった。

調査の結果、対象範囲の西部を中心とする地域において、濃密な竪穴住居跡群を検出し、東部の広い地域については、乱流する埋没河川跡の存在を確認した。しかも、集落跡と埋没河川跡の接点においては、人工的な溝状遺構が開削されていることが判明したことから、集落跡を取り囲む遺構の存在が予見できた点は特筆できる。

なお、国立善通寺病院看護学校建設に伴う発掘調査については、平成9年度においても、継続して実施されることが計画されていることから、旧練兵場遺跡の全容がより明らかにされることが期待されている。

2. 遺跡別発掘調査結果の概要

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
吉野下秀石遺跡	仲多度郡満濃町	1,190m ²	平成 8年6月1日～ 8年8月31日	竪穴住居跡	須恵器、土師器 製埴土器
西浦谷遺跡	木田郡三木町	2,272m ²	平成 8年10月1日～ 8年1月31日	竪穴住居跡、柱穴跡、 土坑、段状遺構	弥生土器、打製石器
旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町	3,000m ²	平成 8年10月1日～ 9年3月31日	竪穴住居跡、掘立柱建 物跡、土器棺墓、溝状 遺構	弥生土器、磨製石斧 打製石器、管玉

香川県埋蔵文化財調査年報

平成 8 年度

平成 9 年 3 月 31 日 発行

編集 香川県教育委員会事務局文化行政課

高松市番町 2 丁目 1 番 10 号 NTT 番町ビル

電話 (087) 831-1111

発行 香川県埋蔵文化財研究会

印刷 瑞成光社

本書は、版権者の了承を得て埋蔵文化財研究会で発行したものである。